主な医薬品とその作用

問６１

かぜ（感冒）及びかぜ薬（総合感冒薬）に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

a　かぜは単一の疾患ではなく、医学的にはかぜ症候群といい、主にウイルスが鼻や喉などに感染して起こる上気道の急性炎症の総称で、通常は数日～１週間程度で自然寛解し、予後は良好である。

b　かぜであるからといって必ずしもかぜ薬を選択するのが最適とは限らず、存在しない症状に対する不要な成分が配合されていると、無意味に副作用のリスクを高めることとなる。

c　かぜとよく似た症状が現れることがある疾患に、喘（ぜん）息、アレルギー性鼻炎、リウマチ熱、関節リウマチ、肺炎、肺結核、髄膜炎、急性肝炎、尿路感染症等がある。

d　かぜ薬は、細菌やウイルスの増殖を抑えたり、体内から除去することを目的として用いられる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	正	誤	正
4	正	誤	正	正
5	誤	正	正	正

問６２

かぜ（感冒）の症状の緩和に用いられる漢方処方製剤に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

a　葛根湯（かっこんとう）は、体力虚弱で、汗が出るもののかぜの初期に適すとされる。

b　半夏厚朴湯（はんげこうぼくとう）は、体力中等度をめやすとして、気分がふさいで、咽喉・食道部に異物感があり、ときに動悸（き）、めまい、嘔（おう）気などを伴う不安神経症、神経性胃炎、つわり、咳（せき）、しわがれ声、のどのつかえ感に適すとされる。

c　小青竜湯（しょうせいりゅうとう）は、体力中等度又はやや虚弱で、うすい水様の痰（たん）を伴う咳（せき）や鼻水が出るものの気管支炎、気管支喘（ぜん）息、鼻炎、アレルギー性鼻炎、むくみ、感冒、花粉症に適すとされる。

d　小柴胡湯（しょうさいことう）は、体力充実して、かぜのひきはじめで、寒気がして発熱、頭痛があり、咳（せき）が出て身体のふしぶしが痛く汗が出ていないものの感冒、鼻かぜ、気管支炎、鼻づまりに適すとされる。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	正	誤	正
3	誤	正	正	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	誤	誤	正

問６３

プロスタグランジン及び解熱鎮痛薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

a　プロスタグランジンは、脳の下部にある体温を調節する部位（温熱中枢）に作用して、体温を通常よりも高く維持するように調節する。

b　プロスタグランジンは、体の各部位で発生した痛みが脳へ伝わる際に、そのシグナルを増幅することで痛みの感覚を強めている。

c　解熱鎮痛薬の連用により頭痛が常態化することがあるので注意を要する。

d　解熱鎮痛薬による末梢でのプロスタグランジンの産生抑制は、腎血流量を増加させる。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	誤
2	正	誤	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	正	正	正	誤
5	誤	正	正	正

問６４

解熱鎮痛薬の配合成分等に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

ａ　アセトアミノフェンは、主として中枢作用によって解熱・鎮痛をもたらすため、末梢における抗炎症作用は期待できない。

ｂ　シャクヤクは、ツヅラフジ科のオオツヅラフジの蔓(つる)性の茎及び根茎を、通例、横切したものを基原とする生薬で、鎮痛、尿量増加（利尿）等の作用を期待して用いられる。

ｃ　アスピリンは、サリチル酸系と呼ばれる解熱鎮痛成分であり、他の解熱鎮痛成分に比較して胃腸障害を起こしやすい。

ｄ　メトカルバモールは、消化器系の副作用として悪心（吐きけ）・嘔(おう)吐、食欲不振、胃部不快感が現れることがある。

	ａ	ｂ	ｃ	ｄ
１	正	誤	正	誤
２	正	正	誤	正
３	誤	正	正	誤
４	正	誤	正	正
５	誤	誤	誤	正

問６５

眠気を促す薬及びその配合成分等に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

ａ　抗ヒスタミン成分を主薬とする催眠鎮静薬は、一時的な睡眠障害（寝つきが悪い、眠りが浅い）の緩和に使用されず、慢性的に不眠症状がある人や、医療機関において不眠症の診断を受けている人に使用される。

ｂ　ジフェンヒドラミン塩酸塩は、抗ヒスタミン成分の中でも特に眠気を促す作用が強い。

ｃ　チョウトウコウは、クロウメモドキ科のサネブトナツメの種子を基原とする生薬であり、神経の興奮・緊張緩和を期待して用いられる。

ｄ　抑肝散(よくかんさん)は、体力中等度をめやすとして、神経がたかぶり、怒りやすい、イライラなどがあるものの神経症、不眠症、小児夜なき、小児疳(かん)症（神経過敏）、歯ぎしり、更年期障害、血の道症に適すとされる。

１（ａ、ｂ）　２（ａ、ｃ）　３（ｂ、ｃ）　４（ｂ、ｄ）　５（ｃ、ｄ）

問６６

眠気を防ぐ薬及びその配合成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

ａ　カフェインは、脳に軽い興奮状態を引き起こし、一時的に眠気や倦(けん)怠感を抑える効果がある。

ｂ　カフェインの眠気防止に関連しない作用として、腎臓におけるナトリウムイオンの再吸収促進作用があり、尿量の増加（利尿）をもたらす。

ｃ　成長期の小児の発育には睡眠が重要であることから、小児用の眠気防止薬はない。

ｄ　眠気防止薬には、眠気を抑える成分として、チアミン塩化物塩酸塩が配合されている。

１（ａ、ｂ）　２（ａ、ｃ）　３（ａ、ｄ）　４（ｂ、ｃ）　５（ｂ、ｄ）

問６７

鎮暈(うん)薬（乗物酔い防止薬）の配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

ａ　ジフェンヒドラミンサリチル酸塩は、延髄にある嘔(おう)吐中枢への刺激や内耳の前庭における自律神経反射を抑える作用を示す。

ｂ　ジフェニドール塩酸塩は、内耳にある前庭と脳を結ぶ神経（前庭神経）の調節作用のほか、内耳への血流を改善する作用を示す。

ｃ　アミノ安息香酸エチルは、胃粘膜への麻酔作用によって嘔(おう)吐刺激を和らげ、乗物酔いに伴う吐きけを抑えることを目的として配合されている場合がある。

ｄ　ジプロフィリンは、脳への抑制作用により、平衡感覚の混乱によるめまいを軽減させることを目的として配合されている。

	ａ	ｂ	ｃ	ｄ
１	正	正	正	正
２	正	正	正	誤
３	正	正	誤	正
４	正	誤	正	正
５	誤	正	正	正

問６８

小児の疳を適応症とする生薬製剤・漢方処方製剤（小児鎮静薬）及びその生薬成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

a　カンゾウは、小児の疳を適応症とする生薬製剤では主として健胃作用を期待して用いられる。

b　小児鎮静薬は、鎮静作用のほか、血液の循環を促す作用があるとされる生薬成分を中心に配合されている。

c　柴胡加竜骨牡蛎湯を小児の夜泣きに用いる場合には、体質の改善に１ヶ月位を要するため、症状の改善がみられないときでも、少なくとも１ヶ月位は継続して服用すべきである。

d　ジンコウは、ジンチョウゲ科のジンコウ、その他同属植物の材、特にその辺材の材質中に黒色の樹脂が沈着した部分を採取したものを基原とする生薬で、鎮静、健胃、強壮などの作用を期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	正	誤	正
3	誤	正	正	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	誤	誤	正

問６９

鎮咳去痰薬の配合成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

a　ジヒドロコデインリン酸塩は、延髄の咳嗽中枢に作用して、咳を抑える。

b　メチルエフェドリン塩酸塩は、交感神経系を抑制して気管支を拡張させる作用を示し、呼吸を楽にして咳や喘息の症状を鎮めることを目的として用いられる。

c　カルボシステインは、気管支を拡張させる作用を示し、呼吸を楽にして咳や喘息の症状を鎮めることを目的として用いられる。

d　トラネキサム酸は、気道の炎症を和らげることを目的として用いられる。

1（a、b）　2（a、c）　3（a、d）　4（b、c）　5（c、d）

問７０

口腔咽喉薬、うがい薬（含嗽薬）及びその配合成分等に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

a　口腔咽喉薬は、口腔内又は咽頭部の粘膜に局所的に作用して、それらの部位の炎症による痛み、腫れ等の症状の緩和を主たる目的とするものである。

b　ハッカから得られる精油成分は、芳香による清涼感等を目的として配合されている場合がある。

c　駆風解毒湯は体力に関わらず使用でき、喉が腫れて痛む扁桃炎、扁桃周囲炎に適すとされる。

d　噴射式の液剤では、息を吐いたり、声を出しながら噴射すると、有効成分が口腔内や咽頭部に行き渡らないおそれがあるため、息を吸いながら噴射することが望ましい。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	誤
3	誤	正	正	正
4	誤	誤	正	誤
5	正	誤	誤	正

問７１

胃の薬の配合成分等に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

a　ピレンゼピン塩酸塩は、アセチルコリンの働きを亢進することから、胃液の分泌を促す作用を期待し配合されている。

b　アルジオキサは、アルミニウムを含むため、透析を受けている人では使用を避ける必要がある。

c　スクラルファートは、炭水化物、脂質、タンパク質、繊維質等の分解に働く酵素を補うことを目的として用いられる。

d　ケイヒは、クスノキ科の *Cinnamomum cassia* J.Presl の樹皮又は周皮の一部を除いた樹皮を基原とする生薬で、香りによる健胃作用を期待して用いられる。

１（ａ、ｂ）　２（ａ、ｃ）　３（ａ、ｄ）　４（ｂ、ｃ）　５（ｂ、ｄ）

問７２

胃や腸の不調を改善する目的で用いられる漢方処方製剤に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

a　安中散（あんちゅうさん）は、体力中等度以下で、腹部は力がなくて、胃痛又は腹痛があって、ときに胸やけや、げっぷ、胃もたれ、食欲不振、吐きけ、嘔（おう）吐などを伴うものの神経性胃炎、慢性胃炎、胃腸虚弱に適すとされる。

b　六君子湯（りっくんしとう）は、まれに重篤な副作用として、肝機能障害を生じることが知られている。

c　大黄甘草湯（だいおうかんぞうとう）は、体力中等度以上で、下腹部痛があって、便秘しがちなものの月経不順、月経困難、月経痛、便秘、痔（じ）疾に適すとされる。

d　麻子仁丸（ましにんがん）は、体力中等度以下で、ときに便が硬く塊状なものの便秘、便秘に伴う頭重、のぼせ、湿疹（しん）・皮膚炎、ふきでもの（にきび）、食欲不振（食欲減退）、腹部膨満、腸内異常醗酵、痔（じ）などの症状の緩和に適すとされる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	正	正	誤
3	正	正	誤	正
4	誤	誤	誤	正
5	正	誤	正	誤

問７３

腸の薬の配合成分等に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

ａ　腸内細菌のバランスを整えることを目的として、ビフィズス菌等の生菌成分が用いられる。

ｂ　日本薬局方収載のゲンノショウコは、煎薬として整腸（便通を整える。）、腹部膨満感等に用いられる。

ｃ　タンニン酸ベルベリンは、タンニン酸（収斂作用）とベルベリン（抗菌作用）の化合物であり、消化管内ではタンニン酸とベルベリンに分かれて、それぞれ止瀉に働くことを期待して用いられる。

	ａ	ｂ	ｃ
１	誤	誤	正
２	誤	正	誤
３	正	誤	誤
４	正	誤	正
５	正	正	正

問７４

瀉下薬の配合成分等に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

ａ　ジオクチルソジウムスルホサクシネートは、糞便中の水分量を増して柔らかくすることによる瀉下作用を期待して用いられる。

ｂ　センナ中に存在するセンノシドは、大腸に生息する腸内細菌によって分解され、分解生成物が大腸を刺激して瀉下作用をもたらすと考えられている。

ｃ　ビサコジルは、小腸でリパーゼの働きによって生じる分解物が、小腸を刺激することで瀉下作用をもたらすと考えられている。

ｄ　酸化マグネシウムは、腸内容物の浸透圧を下げることで糞便中の水分量を増し、また、大腸を刺激して排便を促すことを目的として配合されている。

１（ａ、ｂ）　２（ａ、ｃ）　３（ｂ、ｃ）　４（ｂ、ｄ）　５（ｃ、ｄ）

問７５

胃腸鎮痛鎮痙(けい)薬及びその配合成分等に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

ａ　エンゴサクは、ナス科ハシリドコロの根茎及び根を基原とし、鎮痛鎮痙(けい)作用を期待して配合される。

ｂ　抗コリン成分が配合された医薬品を使用した後は、乗物又は機械類の運転操作を避ける必要がある。

ｃ　消化管の粘膜及び平滑筋に対する麻酔作用による鎮痛鎮痙(けい)の効果を期待して、チキジウム臭化物のような局所麻酔成分が配合されている場合がある。

ｄ　ロートエキスは、吸収された成分の一部が母乳中に移行して乳児の脈が速くなる（頻脈）おそれがある。

１（ａ、ｂ）　２（ａ、ｃ）　３（ａ、ｄ）　４（ｂ、ｃ）　５（ｂ、ｄ）

問７６

浣(かん)腸薬及びその配合成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

ａ　浣(かん)腸薬は、繰り返し使用すると直腸の感受性が高まり、効果が強くなるため、連用しないこととされている。

ｂ　腹痛が著しい場合や便秘に伴って吐きけや嘔(おう)吐が現れた場合には、急性腹症（腸管の狭(さく)窄、閉塞、腹腔(くう)内器官の炎症等）の可能性があり、浣(かん)腸薬の配合成分の刺激によってその症状を悪化させるおそれがある。

ｃ　グリセリンが配合された浣(かん)腸薬を使用すると、排便時に血圧低下を生じて、立ちくらみの症状が現れることがある。

ｄ　炭酸水素ナトリウムは、浸透圧の差によって腸管壁から水分を取り込んで直腸粘膜を刺激し、排便を促す効果を期待して用いられる。

１（ａ、ｂ）　２（ａ、ｃ）　３（ｂ、ｃ）　４（ｂ、ｄ）　５（ｃ、ｄ）

問７７

強心薬に配合される生薬成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

ａ　センソは、心筋に直接刺激を与え、その収縮力を高める作用（強心作用）を期待して用いられる。

ｂ　ゴオウは、ウシ科のウシの胆嚢（のう）中に生じた結石を基原とする生薬で、強心作用のほか、末梢血管の収縮による血圧上昇作用があるとされる。

ｃ　ロクジョウは、シカ科の *Cervus nippon* Temminck、*Cervus elaphus* Linné、*Cervus canadensis* Erxleben 又はその他同属動物の雄鹿の角化していない幼角を基原とする生薬で、強心作用のほか、強壮、血行促進等の作用があるとされる。

ｄ　リュウノウは、中枢神経系の刺激作用による気つけの効果を期待して用いられる。

	ａ	ｂ	ｃ	ｄ
１	正	正	誤	正
２	正	正	正	誤
３	誤	正	誤	誤
４	誤	誤	正	正
５	正	誤	正	正

問７８

コレステロール、高コレステロール改善薬及びその配合成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

ａ　コレステロールは水に溶けにくい物質であるため、血液中では血漿（しょう）タンパク質と結合したリポタンパク質となって存在する。

ｂ　高コレステロール改善薬は、ウエスト周囲径（腹囲）を減少させるなどの痩（そう）身効果を目的とした医薬品である。

ｃ　パンテチンは、低密度リポタンパク質（ＬＤＬ）等の異化排泄（せつ）を促進し、リポタンパクリパーゼ活性を高めて、高密度リポタンパク質（ＨＤＬ）産生を高める作用があるとされる。

ｄ　ビタミンＢ２は、コレステロールからの過酸化脂質の生成を抑えるほか、末梢血管における血行を促進する作用があるとされ、血中コレステロール異常に伴う末梢血行障害（手足の冷え、痺（しび）れ）の緩和等を目的として用いられる。

１（ａ、ｂ）　２（ａ、ｃ）　３（ｂ、ｃ）　４（ｂ、ｄ）　５（ｃ、ｄ）

問７９

高コレステロール改善薬の配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

a　大豆油不けん化物（ソイステロール）は、コレステロールと結合して代謝されやすいコレステロールエステルを形成するとされ、肝臓におけるコレステロールの代謝を促す効果を期待して用いられる。

b　リボフラビンの摂取によって尿が黄色くなることがある。

c　トコフェロール酢酸エステルは、コレステロールの生合成抑制と排泄(せつ)・異化促進作用、過酸化脂質分解作用を目的として用いられる。

d　ポリエンホスファチジルコリンは、腸管におけるコレステロールの吸収を抑える効果を期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	誤	正	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	誤	誤	正

問８０

貧血用薬（鉄製剤）及びその配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

ａ　貧血用薬（鉄製剤）を服用すると便が黒くなることがあるが、服用前から便が黒い場合は貧血の原因として消化管内で出血している場合もあるため、服用前の便の状況との対比が必要である。

ｂ　ビタミンＣは、消化管内で鉄が吸収されやすい状態に保つことを目的として用いられる。

ｃ　貧血を改善するため、ヘモグロビン産生に必要なビタミンＢ６や、正常な赤血球の形成に働くビタミンＢ１２や葉酸などが配合されている場合がある。

ｄ　硫酸マンガンは、骨髄での造血機能を高める目的で配合されている。

	ａ	ｂ	ｃ	ｄ
１	誤	誤	正	正
２	正	誤	誤	正
３	正	正	誤	誤
４	正	正	正	誤
５	誤	正	正	正

問８１

痔(じ)疾用薬及びその配合成分等に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

a　内用痔(じ)疾用薬に含まれるカイカは、マメ科のエンジュの蕾(つぼみ)を基原とする生薬で、主に止血効果を期待して用いられる。

b　外用痔(じ)疾用薬に含まれるシコンは、シソ科のコガネバナの周皮を除いた根を基原とする生薬で、止血効果を期待して用いられる。

c　外用痔(じ)疾用薬に含まれる酸化亜鉛は、粘膜表面に不溶性の膜を形成することによる、粘膜の保護・止血効果を目的として配合されている。

d　乙字湯(おつじとう)は、通常、構成生薬としてダイオウを含んでいる。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	誤	正	正	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	誤	誤
5	誤	誤	正	誤

問８２

泌尿器用薬に配合される生薬成分及び漢方処方製剤に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

a　ウワウルシは、ツツジ科のクマコケモモの葉を基原とする生薬で、利尿作用のほかに、経口的に摂取した後、尿中に排出される分解代謝物が抗菌作用を示し、尿路の殺菌消毒効果を期待して用いられる。

b　キササゲは、シソ科のウツボグサの花穂を基原とする生薬で、日本薬局方収載のものは煎薬として残尿感、排尿に際して不快感のあるものに用いられる。

c　竜胆瀉肝湯（りゅうたんしゃかんとう）は、体力中等度以上で、下腹部に熱感や痛みがあるものの排尿痛、残尿感、尿の濁り、こしけ（おりもの）、頻尿に適すとされる。

d　猪苓湯（ちょれいとう）は、体力に関わらず使用でき、排尿異常があり、ときに口が渇くものの排尿困難、排尿痛、残尿感、頻尿、むくみに適すとされる。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	正	正
5	正	正	正	誤

問８３

次の記述にあてはまる婦人薬の漢方処方製剤として、最も適切なものはどれか。

体力中等度又はやや虚弱で、冷えがあるものの胃腸炎、腰痛、神経痛、関節痛、月経痛、頭痛、更年期障害、感冒に適すとされるが、体の虚弱な人（体力の衰えている人、体の弱い人）、胃腸の弱い人、発汗傾向の著しい人では、不向きとされるもので、構成生薬としてマオウを含むもの。

1　桃核承気湯（とうかくじょうきとう）
2　四物湯（しもつとう）
3　五積散（ごしゃくさん）
4　温清飲（うんせいいん）
5　桂枝茯苓丸（けいしぶくりょうがん）

問８４

内服アレルギー用薬（鼻炎用内服薬を含む。）の配合成分等に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

ａ　副交感神経系の働きを促進することによって、鼻汁分泌やくしゃみを抑えることを目的として、ベラドンナ総アルカロイドが配合されている場合がある。

ｂ　抗ヒスタミン成分であるクロルフェニラミンマレイン酸塩は抗コリン作用も示すため、排尿困難等の副作用が現れることがある。

ｃ　ケイガイは、モクレン科のタムシバの蕾（つぼみ）を基原とする生薬で、鎮静、鎮痛の作用を期待して用いられる。

ｄ　モノアミン酸化酵素阻害剤が処方されて治療を受けている人が、プソイドエフェドリン塩酸塩が配合された鼻炎用内服薬を使用した場合、体内でのプソイドエフェドリンの代謝が妨げられて、副作用が現れやすくなるおそれがある。

１（ａ、ｂ）　２（ａ、ｃ）　３（ａ、ｄ）　４（ｂ、ｄ）　５（ｃ、ｄ）

問８５

鼻に用いる薬及びその配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

a　鼻粘膜が腫れてポリープ（鼻茸（たけ））となっている場合には、一般用医薬品の点鼻薬の使用が適当である。

b　鼻粘膜の過敏性や痛みや痒（かゆ）みを抑えることを目的として、リドカイン塩酸塩が配合されている場合がある。

c　クロモグリク酸ナトリウムは、肥満細胞からヒスタミンの遊離を抑える作用を示し、花粉、ハウスダスト（室内塵（じん））等による鼻アレルギー症状の緩和を目的として、通常、抗ヒスタミン成分と組み合わせて配合される。

d　交感神経系を刺激して鼻粘膜を通っている血管を拡張させることにより、鼻粘膜の充血や腫れを和らげることを目的として、ナファゾリン塩酸塩が配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	誤	正	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	正	誤	誤	誤

問８６

眼科用薬の配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

a　硫酸亜鉛水和物は、結膜嚢（のう）の洗浄・消毒に用いられる。

b　イプシロン－アミノカプロン酸は、炎症の原因となる物質の生成を抑える作用を示し、目の炎症を改善する効果を期待して用いられる。

c　パンテノールは、末梢の微小循環を促進させることにより、結膜充血、疲れ目の症状を改善する効果を期待して配合されている。

d　アスパラギン酸カリウムは、角膜の乾燥を防ぐことを期待して配合されている。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	誤
2	正	誤	誤	正
3	誤	正	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	正	正	正	誤

問８７

眼科用薬の配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

a　スルファメトキサゾールは、炎症を生じた眼粘膜の組織修復を促す作用を期待して配合されている場合がある。

b　テトラヒドロゾリン塩酸塩は、緑内障と診断された人では、眼圧の上昇をまねき、緑内障を悪化させたり、その治療を妨げるおそれがある。

c　プラノプロフェンは、ステロイド性抗炎症成分であり、炎症の原因となる物質の生成を抑える作用を示し、目の炎症を改善する効果を目的として用いられる。

d　ネオスチグミンメチル硫酸塩は、コリンエステラーゼの働きを助ける作用を示し、毛様体におけるアセチルコリンの働きを抑えることで、目の調節機能の改善を目的として用いられる。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	正	誤	誤
3	正	正	誤	正
4	誤	正	正	正
5	正	誤	誤	誤

問８８

きずロ等の殺菌消毒成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

ａ　オキシドールの作用は、過酸化水素の分解に伴って発生する活性酸素による酸化及び発生する水素による泡立ちによる物理的な洗浄効果であるため、作用の持続性は乏しいが、組織への浸透性は高い。

ｂ　ヨードチンキは、ヨウ素をポリビニルピロリドン（ＰＶＰ）と呼ばれる担体に結合させて水溶性とし、徐々にヨウ素が遊離して殺菌作用を示すよう工夫されたものである。

ｃ　イソプロピルメチルフェノールは、細菌や真菌類のタンパク質を変性させることにより殺菌消毒作用を示す。

	ａ	ｂ	ｃ
１	誤	誤	正
２	正	誤	誤
３	誤	正	誤
４	正	正	正
５	誤	正	正

問８９

次の医薬品成分のうち、外皮用薬に用いられる非ステロイド性抗炎症成分として、正しいものの組合せはどれか。

ａ　デキサメタゾン

ｂ　ウフェナマート

ｃ　インドメタシン

ｄ　ヒドロコルチゾン酪酸エステル

１（ａ、ｂ）　２（ａ、ｄ）　３（ｂ、ｃ）　４（ｂ、ｄ）　５（ｃ、ｄ）

問９０

皮膚に用いる薬に配合される抗菌成分及び抗真菌成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

ａ　クロラムフェニコールは、細菌のタンパク質合成を阻害することにより抗菌作用を示す。

ｂ　テルビナフィン塩酸塩は、菌の呼吸や代謝を妨げることにより、皮膚糸状菌の増殖を抑える。

ｃ　ウンデシレン酸亜鉛は、患部をアルカリ性にすることで、皮膚糸状菌の発育を抑える。

	ａ	ｂ	ｃ
１	正	正	誤
２	誤	正	誤
３	正	誤	正
４	誤	正	正
５	正	誤	誤

問９１

歯痛・歯槽膿漏薬の配合成分等に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

a　オイゲノールは、冷感刺激を与えて知覚神経を麻痺させることによる鎮痛・鎮痒の効果を期待して配合されている。

b　ジブカイン塩酸塩は、歯の齲蝕（むし歯）により露出した歯髄を通っている知覚神経の伝達を遮断して痛みを鎮めることを目的として用いられる。

c　サンシシは、アカネ科のクチナシの果実を基原とする生薬で、抗炎症作用を期待して用いられる。

d　カルバゾクロムは、炎症を起こした歯周組織からの出血を抑える作用を期待して配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	誤	正	正
5	正	正	正	誤

問９２

口内炎及び口内炎用薬の配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

a　セチルピリジニウム塩化物は、患部からの細菌感染を防止することを目的として配合されている場合がある。

b　アズレンスルホン酸ナトリウム（水溶性アズレン）は、口腔（くう）粘膜の組織修復を促す作用を期待して配合されている場合がある。

c　口内炎は、栄養摂取の偏り、ストレスや睡眠不足などが要因となって生じることが多いとされている口腔（くう）粘膜の炎症であり、医薬品の副作用によって生じることはない。

d　口内炎が再発を繰り返す場合には、ベーチェット病などの可能性も考えられるので、医療機関を受診するなどの対応が必要である。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	誤	正	正
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	誤	正
5	正	正	誤	正

問９３

禁煙補助剤及びその配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

a　咀嚼剤は、菓子のガムのように噛むと唾液が多く分泌され、ニコチンが唾液とともに飲み込まれてしまい、口腔粘膜からの吸収が十分なされず、また、吐きけや腹痛等の副作用が現れやすくなるため、ゆっくりと断続的に噛むこととされている。

b　咀嚼剤は、口腔内が酸性になるとニコチンの吸収が低下するため、コーヒーや炭酸飲料など口腔内を酸性にする食品を摂取した後しばらくは使用を避けることとされている。

c　ニコチンは、交感神経系を興奮させる作用を示し、アドレナリン作動成分が配合された医薬品との併用により、その作用を増強させるおそれがある。

d　禁煙補助剤には、１日複数回皮膚に貼付することによりニコチンが皮膚を透過して血中に移行するパッチ製剤がある。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	誤	正	正
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	誤	正
5	正	正	誤	正

問９４

滋養強壮保健薬の配合成分等に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

ａ　シアノコバラミンは、赤血球の形成を助け、また、神経機能を正常に保つために重要である。

ｂ　ヘスペリジンは、髪や爪、肌などに存在するアミノ酸の一種で、皮膚におけるメラニンの生成を抑えるとともに、皮膚の新陳代謝を活発にしてメラニンの排出を促す働きがあるとされる。

ｃ　ガンマーオリザノールは、米油及び米胚芽油から見出された抗酸化作用を示す成分である。

ｄ　コンドロイチン硫酸は、軟骨組織の主成分で、軟骨成分を形成及び修復する働きがあるとされる。

	ａ	ｂ	ｃ	ｄ
１	正	誤	誤	正
２	正	誤	正	正
３	誤	正	正	正
４	誤	正	誤	誤
５	正	正	誤	誤

問９５

漢方の特徴及び漢方薬使用における基本的な考え方に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

ａ　漢方薬を使用する場合、「証」に基づいて用いることが、有効性及び安全性を確保するために重要である。

ｂ　漢方処方製剤は、症状の原因となる体質の改善を主眼としているものが多く、比較的長期間（１ヶ月位）継続して服用されることがある。

ｃ　漢方処方は、処方全体としての適用性等、その性質からみて処方自体が一つの有効成分として独立したものという見方をすべきものである。

ｄ　一般用医薬品に用いることが出来る漢方処方は、現在５０処方程度である。

	ａ	ｂ	ｃ	ｄ
１	誤	誤	正	誤
２	正	正	誤	正
３	誤	正	正	正
４	正	正	正	誤
５	正	誤	誤	正

問９６

次の記述にあてはまる漢方処方製剤として、最も適切なものはどれか。

体力虚弱で、元気がなく、胃腸の働きが衰えて、疲れやすいものの虚弱体質、疲労倦（けん）怠、病後・術後の衰弱、食欲不振、ねあせ、感冒に適すとされる。

１　八味地黄丸（はちみじおうがん）
２　十味敗毒湯（じゅうみはいどくとう）
３　黄連解毒湯（おうれんげどくとう）
４　清上防風湯（せいじょうぼうふうとう）
５　補中益気湯（ほちゅうえっきとう）

問９７

生薬成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

a　タイソウは、ミズキ科のサンシュユの偽果の果肉を基原とする生薬で、主に強壮作用を期待して配合されている場合がある。

b　サンヤクは、ヤマノイモ科のヤマノイモ又はナガイモの周皮を除いた根茎（担根体）を基原とする生薬で、主に強壮作用を期待して配合されている場合がある。

c　サイコは、セリ科のミシマサイコの根を基原とする生薬で、抗炎症、鎮痛等の作用を期待して用いられる。

d　カッコンは、マメ科のクズの周皮を除いた根を基原とする生薬で、解熱、鎮痙（けい）等の作用を期待して用いられる。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	誤	正	正
5	正	正	正	誤

問９８

消毒薬及びその配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

a　消毒薬が誤って目に入った場合であって、目を開けることができる時には、顔を横に向けて上から水を流すか、水道水の場合には弱い流れの水で洗うなどにより、流水で十分に（１５分間以上）洗眼する。

b　生息条件が整えば消毒薬の溶液中で生存、増殖する微生物もいる。

c　次亜塩素酸ナトリウムは、酸性の洗剤・洗浄剤と反応して有毒な塩素ガスが発生するため、混ざらないように注意する必要がある。

d　消毒薬を誤って飲み込んだ場合、一般的な家庭における応急処置として、通常は牛乳などを飲ませるが、水は飲ませてはいけない。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	正	誤	正
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	誤	誤

問９９

殺虫剤及びその配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

a　ジクロルボスは、有機リン系殺虫成分であり、アセチルコリンを分解する酵素（アセチルコリンエステラーゼ）と可逆的に結合してその働きを阻害する。

b　ペルメトリンの殺虫作用は、神経細胞に直接作用して神経伝達を阻害することによるものである。

c　オルトジクロロベンゼンは、直接の殺虫作用ではなく、昆虫の脱皮や変態を阻害する目的で用いられる昆虫成長阻害成分である。

d　燻蒸剤は、空間噴射の殺虫剤であり、容器中の医薬品を煙状又は霧状にして一度に全量放出させるものである。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	正	誤	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	誤	誤

問１００

一般用検査薬及び検査値に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

a　専ら疾病の診断に使用されることが目的とされる医薬品のうち、人体に直接使用されることのないものを体外診断用医薬品という。

b　尿糖検査の場合、原則として早朝尿（起床直後の尿）を検体とし、尿タンパク検査の場合、原則として食後２～３時間の尿を検体とする。

c　尿タンパクの検査で、尿中のタンパク値に異常を生じる要因については、腎臓機能障害によるものとして腎炎やネフローゼ、尿路に異常が生じたことによるものとして尿路感染症、尿路結石、膀胱（ぼうこう）炎等がある。

d　一般的な妊娠検査薬は、月経予定日が過ぎて概ね１週目以降の検査が推奨されている。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	誤	誤	誤
3	正	正	誤	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	誤

医薬品の適正使用と安全対策

問１０１

一般用医薬品（一般用検査薬を除く。）の添付文書に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

ａ　添付文書の内容は、医薬品の有効性・安全性等に係る新たな知見を反映するため、３年ごとに定期的な改訂がなされている。

ｂ　重要な内容が変更された場合には、改訂年月を記載するとともに改訂された箇所を明示することとされている。

ｃ　添付文書に記載される薬効名とは、その医薬品の薬効又は性質が簡潔な分かりやすい表現で示されたもので、販売名に薬効名が含まれているような場合には、薬効名の記載は省略されることがある。

ｄ　添付文書に記載されている適正使用情報は、医薬品の販売等に従事する専門家が正確に理解できるよう、専門的な表現となっている。

１（ａ、ｂ）　２（ａ、ｃ）　３（ａ、ｄ）　４（ｂ、ｃ）　５（ｃ、ｄ）

問１０２

一般用医薬品（一般用検査薬を除く。）の添付文書における「使用上の注意」に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

ａ　「してはいけないこと」、「相談すること」及び「消費者相談窓口」から構成され、適正使用のために重要と考えられる項目が前段に記載されている。

ｂ　重篤な副作用として、皮膚粘膜眼症候群、中毒性表皮壊死融解症等が掲げられている医薬品では、アレルギーの既往歴がある人等は使用しないこととして記載されている。

ｃ　副作用については、まず一般的な副作用について関係部位別に症状が記載され、そのあとに続けて、まれに発生する重篤な副作用について副作用名ごとに症状が記載されている。

ｄ　「服用前後は飲酒しないこと」等、小児では通常当てはまらない内容については、小児用の医薬品には記載されない。

１（ａ、ｂ）　２（ａ、ｃ）　３（ｂ、ｃ）　４（ｂ、ｄ）　５（ｃ、ｄ）

問１０３

一般用医薬品（一般用検査薬を除く。）の製品表示及び添付文書に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

ａ　包装中に封入されている医薬品（内袋を含む。）だけが取り出され、添付文書が読まれないといったことのないように、外箱等に、「使用にあたって添付文書をよく読むこと」等、添付文書の必読に関する事項が記載されている。

ｂ　適切な保存条件の下で、製造後１年を超えて性状及び品質が安定であることが確認されている医薬品には、使用期限の法的な表示義務はない。

ｃ　点眼薬では、万一、使用に際して薬液に細菌汚染があった場合に、別の使用者に感染するおそれがあるため、添付文書に「家族以外の人とは共用しないこと」と記載されている。

ｄ　点眼薬に類似した容器に収められた外用液剤では、取り違えにより点眼される事故防止のため、その容器本体に赤枠・赤字で「目に入れない」旨の文字が記載されている。

１（ａ、ｂ）　２（ａ、ｃ）　３（ａ、ｄ）　４（ｂ、ｃ）　５（ｃ、ｄ）

問１０４

次の医薬品成分のうち、外国において、ライ症候群の発症との関連性が示唆されているため、一般用医薬品の添付文書等において、「次の人は使用（服用）しないこと」の項目中に「１５歳未満の小児」と記載することとされているものはどれか。

１　ジヒドロコデインリン酸塩
２　ヒマシ油
３　アスピリン
４　ロペラミド
５　アセトアミノフェン

問１０５

次の一般用医薬品のうち、その添付文書等において、「次の人は使用（服用）しないこと」の項目中に「授乳中の人は本剤を服用しないか、本剤を服用する場合は授乳を避けること」と記載することとされているものとして、正しいものの組合せはどれか。

a　テオフィリンが配合された鎮咳去痰（がい　たん）薬
b　センノシドが配合された内服薬
c　グアヤコールスルホン酸カリウムが配合されたかぜ薬
d　ピレンゼピン塩酸塩水和物が配合された胃腸薬

１（a、b）　２（a、c）　３（a、d）　４（b、d）　５（c、d）

問１０６

一般用医薬品の添付文書等において、「次の人は使用（服用）しないこと」の項目中に「次の診断を受けた人」として記載することとされている次の基礎疾患等と医薬品成分等の組合せの正誤について、正しい組合せはどれか。

	基礎疾患等		医薬品成分等
a	甲状腺機能障害	——	スクラルファートを含む胃腸薬
b	心臓病	——	芍薬甘草湯（しゃくやくかんぞうとう）
c	高血圧	——	アルジオキサを含む胃腸薬
d	糖尿病	——	プソイドエフェドリン塩酸塩

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	誤	正	誤	正
3	正	誤	誤	誤
4	正	誤	正	正
5	誤	正	正	誤

問１０７

次のうち、一般用医薬品の解熱鎮痛薬の添付文書等において、イブプロフェンを配合することにより、「次の人は使用（服用）しないこと」として記載することとされている事項の正誤について、正しい組合せはどれか。

ａ　１５歳未満の小児
ｂ　出産予定日１２週以内の妊婦
ｃ　口の中に傷やひどいただれのある人

	ａ	ｂ	ｃ
１	正	正	正
２	正	正	誤
３	正	誤	正
４	誤	正	正
５	誤	誤	誤

問１０８

次の一般用医薬品の漢方製剤のうち、その添付文書等において、「本剤を使用している間は、次の医薬品を使用しないこと」の項目中に「他の瀉(しゃ)下薬（下剤）」と記載することとされているものはどれか。

１　小柴胡湯(しょうさいことう)
２　抑肝散(よくかんさん)
３　防風通聖散(ぼうふうつうしょうさん)
４　芍薬甘草湯(しゃくやくかんぞうとう)
５　呉茱萸湯(ごしゅゆとう)

問１０９

次の表は、ある一般用医薬品の胃腸鎮痛鎮痙(けい)薬に含まれている成分の一覧である。この一般用医薬品を購入する目的で店舗を訪れた５５歳男性から、次のような相談を受けた。この相談に対する登録販売者の対応の正誤について、正しい組合せはどれか。

１回量（２錠）中 　オキセサゼイン　　５ｍｇ

＜相談内容＞

よく二日酔いで胸やけや胃部不快感が生じている。この胃腸鎮痛鎮痙(けい)薬を使用しようと思うのだが、副作用はどのようなものがあるのか。また、妊娠している同居の娘（３２歳）や同居の孫（７歳）の胃痛にも使用できるか、教えてほしい。

ａ　服用後、頭痛、眠気、めまい、脱力感等の副作用があらわれる可能性があります。
ｂ　痛みが感じにくくなることで重大な消化器疾患や状態の悪化等を見過ごすおそれがありますので、長期間にわたって漫然と使用することは避けてください。
ｃ　妊娠中における安全性は確立されていませんので、妊婦さんには使用できません。
ｄ　３歳未満の小児には使用できませんが、７歳のお孫さんでしたら使用できます。

	ａ	ｂ	ｃ	ｄ
１	正	誤	正	誤
２	正	正	正	誤
３	誤	正	誤	誤
４	誤	誤	誤	正
５	正	正	誤	正

問１１０

次の表は、ある一般用医薬品の鎮暈(うん)薬（乗物酔い防止薬）に含まれている成分の一覧である。この鎮暈(うん)薬の添付文書等において、「相談すること」の項目中に「次の診断を受けた人」として記載されている基礎疾患等として、正しいものの組合せはどれか。

１錠中	
ジフェンヒドラミンサリチル酸塩	４０ｍｇ
ジプロフィリン	２６ｍｇ

ａ　甲状腺機能障害
ｂ　てんかん
ｃ　肝臓病
ｄ　胃・十二指腸潰瘍

１（ａ、ｂ）　２（ａ、ｃ）　３（ｂ、ｃ）　４（ｂ、ｄ）　５（ｃ、ｄ）

問１１１

次の医薬品成分のうち、一般用医薬品の添付文書等の「相談すること」の項目中に、「次の症状がある人」として「排尿困難」と記載することとされているものとして、正しいものの組合せはどれか。

ａ　スコポラミン臭化水素酸塩水和物
ｂ　マルツエキス
ｃ　ロートエキス
ｄ　ビサコジル

１（ａ、ｂ）　２（ａ、ｃ）　３（ａ、ｄ）　４（ｂ、ｃ）　５（ｂ、ｄ）

問１１２

医薬品等の安全性情報等に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

a　医薬品の製造販売業者等は、薬局開設者、店舗販売業者、配置販売業者及びそこに従事する薬剤師や登録販売者に対して、医薬品の有効性及び安全性に関する事項その他医薬品の適正な使用のために必要な情報を提供するよう努めなければならない。

b　緊急安全性情報はイエローレターとも呼ばれ、医薬品、医療機器又は再生医療等製品について、緊急かつ重大な注意喚起や使用制限に係る対策が必要な状況にある場合に作成される。

c　緊急安全性情報は、医療機関や薬局等へ直接配布されるものであり、電子メールによる情報伝達は認められていない。

d　独立行政法人医薬品医療機器総合機構のホームページには、厚生労働省より発行される「医薬品・医療機器等安全性情報」のほか、一般用医薬品・要指導医薬品の添付文書情報及び医薬品等の製品回収に関する情報等が掲載されている。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	正	正	正
3	正	誤	正	正
4	正	正	誤	正
5	正	正	正	誤

問１１３

医薬品の副作用情報等の収集、評価及び措置に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

ａ　血液製剤によるＨＩＶ感染被害を契機として、世界保健機関（ＷＨＯ）加盟各国を中心に、各国自らが医薬品の副作用情報を収集、評価する体制（ＷＨＯ国際医薬品モニタリング制度）が確立された。

ｂ　一般用医薬品に関して、既存の医薬品と明らかに異なる有効成分が配合されたものについては、１０年を超えない範囲で厚生労働大臣が承認時に定める一定期間、承認後の使用成績等を製造販売業者等が集積し、厚生労働省へ提出する制度（再審査制度）が適用される。

ｃ　厚生労働省の健康危機管理に当たっては、科学的・客観的な評価を行うとともに、情報の広範な収集、分析の徹底と対応方針の弾力的な見直しに努め、国民に対して情報の速やかな提供と公表を行うことを基本としている。

	ａ	ｂ	ｃ
１	正	正	正
２	正	誤	正
３	正	正	誤
４	誤	誤	誤
５	誤	正	正

問１１４

医薬品医療機器等法第６８条の１０第１項の規定に基づき、医薬品の製造販売業者に義務付けられている、その製造販売した医薬品の副作用等の報告に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

a　医薬品によるものと疑われる副作用症例の発生のうち、使用上の注意から予測できないもので、国内で発生した重篤（死亡を除く）な事例については、定められた期限までに厚生労働大臣に報告しなければならない。

b　医薬品によるものと疑われる副作用症例の発生のうち、使用上の注意から予測できるもので、国内で発生した重篤（死亡を除く）な事例については、定められた期限までに厚生労働大臣に報告しなければならない。

c　医薬品によるものと疑われる感染症症例の発生のうち、使用上の注意から予測できないもので、国内で発生した非重篤な事例については、厚生労働大臣に報告する必要はない。

d　外国における製造、輸入又は販売の中止、回収、廃棄その他の保健衛生上の危害の発生又は拡大を防止するための措置の実施については、厚生労働大臣に報告する必要はない。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	誤	正	誤
3	正	誤	正	正
4	誤	正	誤	正
5	正	正	正	誤

問１１５

医薬品の副作用情報等の評価及び措置に関する次の記述について、(　　)の中に入れるべき字句の正しい組合せはどれか。

収集された副作用等の情報は、その医薬品の製造販売業者等において評価・検討され、必要な安全対策が図られる。各制度により集められた副作用情報については、(　ａ　)において専門委員の意見を聴きながら調査検討が行われ、その結果に基づき、(　ｂ　)は、(　ｃ　)の意見を聴いて、使用上の注意の改訂の指示等を通じた注意喚起のための情報提供や、効能・効果や用法・用量の一部変更、調査・実験の実施の指示、製造・販売の中止、製品の回収等の安全対策上必要な行政措置を講じている。

	a	b	c
１	医薬品ＰＬセンター	都道府県知事	消費者委員会
２	独立行政法人医薬品医療機器総合機構	厚生労働大臣	消費者委員会
３	独立行政法人医薬品医療機器総合機構	都道府県知事	薬事審議会
４	独立行政法人医薬品医療機器総合機構	厚生労働大臣	薬事審議会
５	医薬品ＰＬセンター	厚生労働大臣	薬事審議会

問１１６

医薬品医療機器等法第６８条の１０第２項の規定に基づく医薬品の副作用等報告に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

ａ　医薬品安全性情報報告書の項目のひとつに、副作用との関連が疑われる一般用医薬品の購入経路（薬局等の店頭での対面販売、インターネットによる通信販売等）がある。

ｂ　購入者等（健康被害を生じた本人に限らない）から適切に情報を把握し、医薬品安全性情報報告書の記入欄すべてに記入しなければならない。

ｃ　複数の専門家が医薬品の販売等に携わっている場合、当該薬局又は医薬品の販売業において販売等された医薬品の副作用等によると疑われる健康被害の情報に接したすべての専門家から報告書が提出される必要がある。

ｄ　医薬品によるものと疑われる死亡事例のほか、日常生活に支障を来す程度の健康被害についても報告が求められている。

１（ａ、ｂ）　２（ａ、ｃ）　３（ａ、ｄ）　４（ｂ、ｃ）　５（ｃ、ｄ）

問１１７

医薬品副作用被害救済制度の給付に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

ａ　給付の種類としては、医療費、医療手当、障害年金、障害児養育年金、遺族年金、遺族一時金及び葬祭料があり、給付の種類によっては請求期限が定められているため、注意する必要がある。

ｂ　障害年金は、医薬品の副作用により一定程度の障害の状態にある１８歳未満の人の生活補償等を目的として給付されるものである。

ｃ　遺族年金は、生計維持者が医薬品の副作用により死亡した場合に、その遺族の生活の立て直し等を目的として給付されるものであり、最高１０年間を給付の限度とする。

ｄ　医療手当は、医薬品の副作用による疾病の治療（入院治療を必要とする程度）に要した費用を実費補償するものである。

	ａ	ｂ	ｃ	ｄ
１	誤	誤	誤	正
２	正	誤	誤	誤
３	誤	正	正	誤
４	正	誤	正	誤
５	正	正	誤	正

問１１８

医薬品副作用被害救済制度に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

ａ　一般用医薬品の使用による副作用被害への救済給付の請求に当たって、その医薬品を販売等した薬局開設者、医薬品の販売業者が作成した販売証明書等が必要となるため、医薬品の販売等に従事する専門家においては、販売証明書の発行につき円滑な対応を図る必要がある。

ｂ　医薬品の副作用であるかどうか判断がつきかねる場合は、給付請求を行うことはできない。

ｃ　医薬品の不適正な使用による健康被害についても、救済給付の対象となる。

ｄ　製品不良など、製薬企業に損害賠償責任がある場合は、救済制度の対象から除外されている。

１（ａ、ｂ）　２（ａ、ｃ）　３（ａ、ｄ）　４（ｂ、ｃ）　５（ｃ、ｄ）

問１１９

医薬品の安全対策に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

a　塩酸フェニルプロパノールアミン含有医薬品については、米国において、女性が食欲抑制剤として使用した場合に、出血性脳卒中の発生リスクとの関連性が高いとの報告がなされ、自主的な販売中止が要請されたが、日本では食欲抑制剤としての承認がないことなどから、厚生省（当時）より注意喚起は行われなかった。

b　慢性肝炎患者が小柴胡湯（しょうさいことう）を使用して間質性肺炎が発症し、死亡を含む重篤な転帰に至った例もあったことから、厚生省（当時）より関係製薬企業に対して緊急安全性情報の配布が指示された。

c　一般用かぜ薬の使用によると疑われる間質性肺炎の発生事例が複数報告されたことを受け、厚生労働省は、一般用かぜ薬全般について使用上の注意の改訂を指示した。

d　解熱鎮痛成分としてアミノピリン、スルピリンが配合されたアンプル入りかぜ薬の使用による重篤な副作用（ショック）が発生したことから、厚生省（当時）より関係製薬企業に対して製品の回収が要請された。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	誤	誤
4	正	誤	誤	正
5	誤	誤	正	正

問１２０

医薬品の適正使用のための啓発活動等に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

ａ　登録販売者は、適切なセルフメディケーションの普及定着、医薬品の適正使用の推進のため、啓発活動に積極的に参加、協力することが期待される。

ｂ　毎年１０月１７日～２３日の１週間を「薬と健康の週間」として、国、自治体、関係団体等による広報活動やイベント等が実施されている。

ｃ　「６・２６国際麻薬乱用撲滅デー」を広く普及し、薬物乱用防止を一層推進するため、毎年６月２０日～７月１９日までの１ヶ月間、国、自治体、関係団体等により、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動が実施されている。

ｄ　薬物依存は、違法薬物（麻薬、覚醒剤等）によってのみ生じるものであり、一般用医薬品では生じ得ない。

	ａ	ｂ	ｃ	ｄ
１	誤	誤	正	正
２	正	誤	誤	正
３	正	誤	正	誤
４	誤	正	誤	誤
５	正	正	正	誤